

令和 2 年 6 月 6 日現在

機関番号：12603

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16H03410

研究課題名 (和文) 南アジア多言語社会における複合文化のなかの文学伝承

研究課題名 (英文) Literary Traditions in the Multiculture of South Asian Multilingual Society

研究代表者

水野 善文 (Mizuno, Yoshifumi)

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授

研究者番号：80200020

交付決定額 (研究期間全体) : (直接経費) 12,600,000 円

研究成果の概要 (和文) : 南アジアの時空両間にわたる言語的多様性が産み出してきた混沌とした複合文化のなか、文学・文芸をつぶさに観察することをおして、外形だけからは決して察知しえなかった通底する精神を浮かび上がらせることができた。

先行の共同研究にて絞り込んであった (1) ラーマ物語、(2) 十二ヶ月諷詠、(3) 歴史的事象をめぐる文学、(4) 映画と文学、(5) 語り、(6) 美的表現方法、の各トピック毎に歴史的、地域的に異なる数多くの言語で創作され享受・伝承された文学・文芸作品を精査することによって、この地域に生を営み続けている人々が共通して保持する潜在意識の一端を垣間見ることができたのである。

研究成果の学術的意義や社会的意義

南アジアの中心をなすインドの文化には仏教伝来以来、わが日本文化も測り知れない恩恵を受けてきているが、インドは将来有望な経済市場として世界的に注目されるなか、わが国との経済交流も一層深まっている。友好・円滑なビジネスのためにも相互理解が不可欠なのは言を俟たないが、とりわけ文化を、それを裏打ちする精神ともども尊重しあうことが肝要であろう。本研究は、この点社会に資するものである。

また、世界の多言語状況を呈する他の地域の文化研究にも、方法論上、裨益するところ大きいのではないかとと思われる。

研究成果の概要 (英文) : In the South Asian region, the shaping of a chaotic multiculture has been nurtured over time within the context of a multilingual society. We thoroughly investigated many literary works written in various languages in South Asia from ancient to modern times, and clarified their common underlying sensibility.

Six topics, in particular, had been selected in our previous research: "Rama stories", "Songs of Twelve Months", "Literature on historical events", "Films and Literature", "Story-telling", "Rhetoric". Through our cooperative research on these topics, some parts of the collective unconscious of the South Asian people could emerge.

研究分野：古典サンスクリット文学と中世ヒンディー文学

キーワード：ラーマ物語 十二ヶ月諷詠 歴史的事象をめぐる文学 映画と文学 語り 美的表現方法

1. 研究開始当初の背景

我が国のインド研究は、近代学問導入以降、文献学的手法によってインド哲学・仏教学の分野で着実に積み上げられてきたが、それは主にサンスクリット語というインド古代の言語を扱うのみであった。辻直四郎著『サンスクリット文学史』(岩波書店、1973)の輩出も、そうしたインド古典学の成果であった。近代インド・アーリヤ諸語やインド南部のタミル語を初めとするドラヴィダ諸語を媒介とする歴史・社会研究は、1900年代早々には着手されていたものの、本格化したのは20世紀の後半になってからである。田中於菟弥・坂田貞二著『インドの文学』(ピタカ、1978)では、サンスクリットのみならず、ヒンディー、ウルドゥー、ベンガル文学が詳しく紹介されるに至ったが、そのほかにも存在する数多の言語による文学の紹介は手付かずの状態だった。

最近20年ほどの間に、いわゆる地域研究が進展する流れのなかで、歴史学や文化人類学などの分野でインドの諸地方を研究対象とする研究者が次々と登場し、そのなかにはそれぞれの現地語を修めて研究の道具とする者たちも現れた。南アジアの各地域を網羅するだけの研究者が結集できる状況になり、多言語に跨る題材を共同して研究する素地が整ったのである。

多言語社会インドの文学を網羅する『インド文学史』を目指して、本研究代表者は最初の共同研究を組織した。基盤研究(A)「多言語社会における文学の歴史的展開と現在：インド文学を事例として」(平成17～19年度)では、研究分担者14名のほか、多くの研究協力者が参画し、総勢30名以上の体制で、研究会での議論、および学会(日本南アジア学会、国際帰依信仰文学会)でのパネル設営や研究報告を繰り返した。とりわけ、様々なディシプリンの研究者から構成される日本南アジア学会にたいしては、会員約550名全員に成果報告書(A4版、195ページ)を郵送配布して、文学・文芸が地域研究の不可欠なアイテムであることをアピールした。

その成果を踏まえて、さらなる深化をはかって開始したのが基盤研究(A)「多言語重層構造をなすインド文学史の先端的分析法と新記述」(平成21～25年度)である。この研究では、言語体系の異なる文化圏が、文学作品の伝承、伝播によって繋がれている様態を観察することに一層傾注してきた。その予備的な共同作業として、我々と同様の問題意識のもとインドの古代から現代までの諸々の言語による文学を、それぞれの専門研究者が共同し受容の側面から文化史として描いた Pollock, Sheldon ed., *Literary Culture in History: Reconstructions from South Asia* (Berkeley; Univ. of California Press, 2003)に所収の各論考を、我々のグループの各言語を扱う16名が批評を加え、日本南アジア学会の英文雑誌 *International Journal of South Asian Studies* の第5号(2012年刊)に“*How should we describe the South Asian History of Literary Cultures? Dialogues with the Essays collected in Literary Cultures in History: Reconstructions from South Asia, edited by Sheldon Pollock*” (pp. 43-72) と題して投稿した。

こうした共同作業や研究会での意見交換をとおして、言語横断的な視点から扱うことに有効な、具体的な題材が浮かび上がってきた。すなわち、1) ラーマ物語、2) 十二月月諷詠、3) 歴史的事象をめぐる文学、4) 映画と文学、5) 語り、6) 美的表現方法、の六つのトピックである。これらに焦点を当て、言語の時空両間を縦横に展開する様を追うことにしたのである。

2. 研究の目的

インドを中心とする南アジア地域は、時代をとおして多様な言語状況を呈している。地域的な差異のみならず、社会的階層間にも差異がみられた。古典期にはサンスクリット語による宮廷文学が展開した一方で、日常語に近いプラークリット諸語(原始仏典が依拠したパーリ語もそのひとつ)による膨大な文献群が存在する。また、中世後期以降は諸地方語によっても数多の文芸が創作された。そのなかには、イスラーム王朝のもとリングア・フランカの役割を果た

したペルシア語による作品も含まれる。それらの文学・文芸には使用言語が異なれども時間・空間ともに通底するテーマ・作風が見いだされる。本研究は、文学・文芸が言語の差異を超えて愛好され伝承される様態を具に観察することによって、テキストとテキストの空隙に存在したはずの人間たちの文化的営為を読み解き、多様な文化様相の底流にあって、それらを繋ぎ合わせる南アジア精神の命脈を描きだすことを目的とした。

3. 研究の方法

以下の諸点につき題材を共同で精査し、言語横断的な文学・文芸の動態を明らかにする方法をとった。

(1) ラーマ物語

ヴァールミーキに帰せられるサンスクリット叙事詩『ラーマヤナ』は、そのテキスト成立過程も詳細に明らかにされつつある(J. Brockington, *Righteous Rāma*, Oxford Univ. Press, 1985, および J. and M. Brockington tr., *Rāma the Steadfast: an early form of Rāmāyaṇa*, London, 2006) が、娯楽や教訓として重宝されたり宗教儀礼において読誦されたのみならず、文法・韻律の教材としても利用された。そして、インド国内に留まらず広くアジア諸国に言語を超えて移植された結果、無数といってもよいほどのバージョンが存在する。諸言語による各バージョンの1シーンを比較するなどして、それぞれのテキストの特徴を明らかにしつつ「ラーマ物語」伝承史をより鮮明に描き、同じ題材が違う時代・地域・環境のなかでどのように変容したのか考察する。

(2) 十二ヶ月諷詠

サンスクリット詩人カーリダーサ(4-5世紀)の抒情詩篇『雲の使者』と共通の起源から発したと目される恋愛抒情詩は、とりわけ民間において、季節の風物詩を織り込みながら出嫁ぎ中の夫を恋慕う妻の情感を詠む『十二ヶ月諷詠』として非常にポピュラーな形式となった。形態的には北インドの諸言語圏にみられるが、同趣旨の作品は南部のドラヴィダ諸言語圏にも存在する。母音連続の多いプラークリット諸語(俗語)のほうが、掛詞が作りやすく、短句で表現される抒情詩には適っていることから、この形式による抒情詩のオリジンは巷間にあるとする見解があるが、それを実証するとともに、民衆文芸史のひとつとして描き出す。

(3) 歴史的事象をめぐる文学

例えばインド・パキスタン分離独立や1992年のアヨーディア事件はヒンドゥーとムスリムの対立構造で語られがちだが、当事者ではなかった人々の言説はいかなるものであったのか、つまり言語を異にする他の地方、とりわけ南インドの文人などはどのように描いたかを探る。文学をとおしてそれぞれの文化圏の人々の歴史的な身の置き場所がどこにあったのか再考する。

(4) 映画と文学

近現代の文学作品からだけではなく二大叙事詩やプラーナ神話などのヒンドゥー古典からもテーマが提供されているインド最大の娯楽、映画は、創作技法につき古典サンスクリット文学のなかで育まれた芸術論・戯曲論の延長線上に位置づけることができる。伝統的な文学作品が、おなじく伝統的な文学理論を礎に、きわめて大衆的なメディアである映画によってどのように表象されるのか観察し、文学がこういった装置によって受容されてきたかを整理する。

(5) 語り

ヴェーダの儀礼的語り、プラーナの寺院における朗誦、王統記の戦場における獅子吼、身近な説話の巷間における「絵解き」というエンターテインメントなど、様々な様式の「語り」を時代・地域・言語・社会的効果といった視点から整理して、全体の関係性を解明し、文学・文芸を伝承する媒体の諸様相を解きほぐす。さらに、近代に至って媒体となった印刷の技術向上にともなう文学の変容と普及についても調査を進め明らかにする。

(6) 美的表現方法

古典の時代から如何に美しく表現するかが文学の肝要であったインドにあって、たとえば

比喩表現などの修辞法は、言語が異なれども古典サンスクリットで確立された理論を踏襲している。音楽・演劇も含めて実例に基づきつつ、受容効果をねらうノウハウの汎用性を解明する。

4. 研究成果

(1) ラーマ物語

研究協力者・手嶋英貴は、ヴァールミーキ版『ラーマヤナ』の第7巻を構成するラーマ物語後日談のなかの「クシャ・ラヴァ物語」に着目し、16-18世紀成立とされるものに至るラーマ物語の、サンスクリット語の諸版のみならずプラークリット語バージョン、さらには東南アジアの諸言語へ移植された作品をも射程にに入れて精査し、文化史の潮流によって発展する過程を明らかにした。ヴェーダ儀礼の様相に倣う形で設定された主人公たちの「吟唱詩人」像から、次第に「英雄戦士」としての性格を色濃く帯びるようになる。更に近代にいたると多様に創作されて来た複数のエピソードを統合する作品が編まれ、その型式のものが東南アジアに伝承されていた。

また、ラーマ兄弟の結婚式に先立って催行された「ゴードーナ儀礼」は、ヴェーダ祭式で規定された「初髭剃り式」としてサンスクリット語諸版のラーマ物語では語り続けられたものの、12世紀頃北インドで「三途の川の渡し賃」を含意するゴードーナ儀礼が一般化すると、中世後期ヒンディー・アワディー方言によるラーマ物語のなかでは、ゴードーナと言う用語の使用を避けざるを得なかった点にも、変遷する文化のなかで存在する作品の価値が感得できた。

さらに、「夢占い」など、同一のシーンがヴァージョンによって内容を異にするのは、その文化事象のポピュラリティが高いゆえに時代相応に描かれていることを確認した。

(2) 十二ヶ月諷詠

季節の風物詩が織り込まれる情緒は本邦の和歌の世界とも相通じ、我々も共感を催される詩世界であったが、王宮サロン等で楽しまれたサンスクリット美文学において「使者文学」という一つのジャンルを形成した民間側の粗地となったと思われる「出稼ぎ社会」の、当事者たちの生の声で語られるのが、この「十二ヶ月諷詠」であった。研究協力者・白田雅之がベンガル地方におけるこの型式の詩作品を丹念に調査し、民謡、中世末から近世に創作された民間信仰神を讃える吉祥詩（モンゴル・カッポ）、恋愛長編物語を盛る東ベンガル物語詩、さらにはヴィシュヌ派宗教歌謡と、多様なジャンルに渡って、この型式が採用されていることが実証された。「出稼ぎ」という生活のなかから湧き出る男女の感情を有りのままに表現していたものが一つの型式となったがゆえに、記録されずに消えていった数多の諷詠の氷山の一角ではあるが、言語や文芸ジャンルの違いを超えて残された事情が窺われた。

(3) 歴史的事象をめぐる文学

複数の歴史事象をとりあげてインド諸言語による文学的言説を多角的に照合する予定であったが、結果的に印パ分離独立をテーマとするものに集中したのは、この出来事がそれ程までに強く彼らの心象として刻まれたからだろう。この時期、火中にいたパンジャービー語作家たちの表現がまさに当事者の視線からみた情景であり、感慨であり、心の叫びであったことが検証された。また、地域的には隔たった南インドなどの地域においてそれぞれの言語で著された文学においては、「独立」という民族意識をいやが上にも鼓舞される環境を共有し、多様な表現ながら、同一の精神に立脚したものであることが確認できた。

受容を意識してのことと思われる英語作品の創作や、小説という型式の採用など、言語・文学手法の面で、英国文化の影響を甘んじて受け入れたところに忸怩たるものがあつたのではないかと、第三者的には感じてしまうが、自らの精神・文化を吐露する手段として最良の選択をしたと看做しえよう。

(4) 映画と文学

インド国内のみならず本邦においても近年ロードショー公開されて人気を博している映画に関してだけ見ても、使用言語は、ヒンディー語、ベンガル語、タミル語、テルグ語等々、多岐にわたり、製作地の多様性がうかがえる。ご多分に漏れず、著名な作家の文学作品が映画化されたものが存在する一方で、二大叙事詩やヒンドゥー聖典群であるプラーナ文献所収の各種神話など、いわば古典文学を翻案した映画が多いところにインドの特色が出ている。タイトルだけから察知できないのは勿論、全編鑑賞しても翻案元が判然としない作品も創作されているが、詳細なモチーフ分析を施すことで、制作者の意図に合致する形であるかどうかはともかくとして、翻案元を浮かび上がらせることが出来た。それらは、美的脚色面でのノウハウに生かされ続けている古典的芸術鑑賞論であるラサ理論(人間であれば誰もがもっている感情を九つに分類し、それらの幾つかの感情を芸術鑑賞を契機として如何に呼び起こすかことが出来るかの議論)とともに、制作者側・鑑賞者側双方の潜在意識の中に沁み込んでいる伝統的インド文化そのものと言えよう。

(5) 語り

音楽を交えた「語り芸」であるハリカター(Harikathā, 「ヴィシュヌ神への語り」を含意する)は、その起源をラーマ物語の語り部「クシャとラヴァ」に求められるほど古い伝統を継ぐものであるが、南インド・タミル地方に展開したこの語り芸の様相を、西インドにあったマラーター王国(1675-1855)からの伝来要素という言語横断的展開をも看取しながら、道徳的芸術という視点で、研究協力者・小尾淳が精査した。二大叙事詩、プラーナ文献、各種の神話などから取材された、汎インド的にポピュラーな芸目がある一方、地方の聖者伝をテーマとしたローカルな内容のものも創作された。必ずしもタイトルから連想されるような、ヒンドゥー易行道とも言える汎インド的バクティ信仰の鼓吹が主眼なのではなかった。演じ手は、サンスクリット語や音楽の専門的知識のみならず、多くの地方語も繰ることができる、高度な専門職者であった。

他の地域でもプロの語り部たちが提供する語りの内容は、二大叙事詩、プラーナ等に由来するものが多い。例えば、『マハーバーラタ』中に組み込まれている「ナラ王物語」は地方語で『ドーラーマール(Dholā Mārū)』と題する「語りもの」としてしても楽しまれているが、ラージャスターン州で愛好されているものとチャッチースガル州に伝承されているものとは内容が異なり、それぞれ独自の展開があったことが分かる。

一方、語り部専門職の口によるのではない、家族・親戚、隣近所のあいだで、あるいは行商人が客集めのために披露する「語り」、すなわち民話・昔話の世界は、パーリ・ジャータカをはじめ、『パンチャタントラ』などサンスクリット説話集として作品化されて伝承されているが、明らかに口頭伝承されていた格言詩の引用の仕方や、後代数多くの地方語によって編まれた諸版のヴァラエティーの豊富を観察すると、我々が目にする作品は、たゆまない口頭伝承の一齣の記録と捉えることが出来るのである。

(6) 美的表現方法

古典サンスクリット文学において、その言語の特殊性を余す所なく発揮すべく修辞論が高度に発展したが、12世紀以降、特に北ではイスラーム文化との相互影響の環境下、各地の地方語文学がそれぞれに隆盛をみることになり、たとえばヒンディー文学でも、ブラジ・バーシャー方言がクリシュナ信仰文学の用語に採用されて急速に洗練されるや修辞学書(ラサ論を含む文学理論書・詩論書)がしばしば創作された。サンスクリット修辞学を踏襲する形で言語的特徴を異にする文学に理論導入する同様の展開は、事情は異なれども南のカナダ文学でも見られた。為政者らエリートたちが時代潮流に要求されるまま教養修得に努める姿も窺えたが、作例として自ら詩人でもある詩論家が詠み挟んだ讃嘆詩はパトロンである王族に向けられているところにも、当時の社会を映し出すものとしての詩論書の存在があった。

※ 研究分担者、研究協力者による個々の研究成果については、論集の形でまとめた中間報告書(ISBN:978-4-907877-18-7)および報告書(ISBN:978-4-907877-21-7)を参照されたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計30件（うち査読付論文 18件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 水野善文	4. 巻 22
2. 論文標題 インドの響きを読み解く試み—音と情操—	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 総合文化研究	6. 最初と最後の頁 73-85
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15026/92873	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 —

1. 著者名 Fujii, Morio	4. 巻 3
2. 論文標題 The View of Language of the Khurasan school of Mysticism, Tasawwuf-i Khurasan: An Essay Considering The Basic Structure of Mystical Discourse from the Perspective of “Unutterable Language” (Kalam nafsi)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Islamic Studies and the Study of Sufism in Academic : Rethinking Methodologies, (Kyoto Kenan Rifai Center for Sufi Studies 3),	6. 最初と最後の頁 331-351
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 —

1. 著者名 坂田貞二	4. 巻 139
2. 論文標題 ヒンディー文学における「呪い」と「予言・夢」——叙事詩『ラーム チャリト マーナス』で16世紀のトゥルスィーダースが詠い訴えようとしたこと——	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 拓殖大学 語学研究	6. 最初と最後の頁 29-50
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 —

1. 著者名 Kawamura, Yuto	4. 巻 28
2. 論文標題 Sharanadeva's Device to Justify Vedic Usage in Non-Vedic Literature	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Indological Studies	6. 最初と最後の頁 51-64
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 —

1. 著者名 Okita, Kiyokazu	4. 巻 22-1
2. 論文標題 Ethics and Aesthetics in Early Modern South Asia: A Controversy surrounding the Bhagavata Purana Book X	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 International Journal of Hindu Studies	6. 最初と最後の頁 25-43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s11407-018-9223-7	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 —

1. 著者名 Okita, Kiyokazu	4. 巻 67-3
2. 論文標題 Bitextuality in Bhagavata Purana X.29.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Indian and Buddhist Studies	6. 最初と最後の頁 1043-1048
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4259/ibk.67.3_1043	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 —

1. 著者名 松村耕光	4. 巻 18
2. 論文標題 雨と女の恋の歌——インドの雨季について——	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 印度民俗研究	6. 最初と最後の頁 79-89
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 —

1. 著者名 山畑倫志	4. 巻 67-1
2. 論文標題 ジャイナ教における六十三偉人の形成とラーマ説話の関係	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 印度學佛教學研究	6. 最初と最後の頁 494-488
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 —

1. 著者名 田森雅一	4. 巻 166
2. 論文標題 サロード誕生の秘密	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 季刊民族学	6. 最初と最後の頁 27-34
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 —

1. 著者名 宮本久義	4. 巻 56
2. 論文標題 『シヴァ・プラーナ』所収の「ヴィシュヴェーシュヴァラ・マーハートミヤ」：和訳と註解	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東洋学研究	6. 最初と最後の頁 53-65
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 —

1. 著者名 長崎広子	4. 巻 18
2. 論文標題 太鼓と女は叩くべし—『ラームチャリットマーナス』の女性観—	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 印度民俗研究	6. 最初と最後の頁 49-59
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 —

1. 著者名 水野善文	4. 巻 1
2. 論文標題 インド説話にみる共生—Pancadivya-divasaを中心に—	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 釈 悟震編『インドの共生思想の総合的研究----思想構造とその変容を巡って』白峰社	6. 最初と最後の頁 84-112
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 —

1. 著者名 丹羽京子	4. 巻 94
2. 論文標題 ビシュヌ・デの『地獄』	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 東京外国語大学論集	6. 最初と最後の頁 69-86
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 —

1. 著者名 丹羽京子	4. 巻 95
2. 論文標題 タゴール、ポスト・タゴール、エリオット	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 東京外国語大学論集	6. 最初と最後の頁 147-170
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 —

1. 著者名 Niwa, Kyoko	4. 巻 10
2. 論文標題 Japan Yatri as a travel literature,	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 International Journal of Bengal Studies	6. 最初と最後の頁 391-407
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 —

1. 著者名 長崎広子	4. 巻 9
2. 論文標題 ヒンディー詩における音韻的リズム	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 南アジア言語文化	6. 最初と最後の頁 56-76
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 —

1. 著者名 長崎広子	4. 巻 17
2. 論文標題 ムガル皇帝アクバルとふたりのスールダースー聖者伝文学の記述をととしてー	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 印度民俗研究	6. 最初と最後の頁 43-63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 ー

1. 著者名 Nagasaki, Hiroko	4. 巻 1
2. 論文標題 Duality in the Language and Literary Style of Raskhan's Poetry	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Tyler Williams, Anshu Malhotra, and John Stratton Hawley(eds.)Text and Tradition in Early Modern North India, Delhi: Oxford University Press India	6. 最初と最後の頁 159-173
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 ー

1. 著者名 松村耕光	4. 巻 11
2. 論文標題 ガザル (1) ーイクバルのウルドゥー詩 (11) ー	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 イスラーム世界研究	6. 最初と最後の頁 313-321
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 ー

1. 著者名 Sakata, Teiji	4. 巻 1
2. 論文標題 Hindi Barahmasa Tradition: From Narpati Nalha to Present-Day Folk Songs and Popular Publications	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Tyler Williams, Anshu Malhotra, and John Stratton Hawley(eds.)Text and Tradition in Early Modern North India, Delhi: Oxford University Press India	6. 最初と最後の頁 219-231
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 ー

1. 著者名 白田雅之	4. 巻 265
2. 論文標題 ベンガル語の詩の世界から見た「殺人事件」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 詩界	6. 最初と最後の頁 17-24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 —

1. 著者名 山畑倫志	4. 巻 65-1
2. 論文標題 ネーミナータ説話の変容 一行伝から季節詩へ	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 印度学仏教学研究	6. 最初と最後の頁 470-475
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 —

1. 著者名 田森雅一	4. 巻 15
2. 論文標題 “再帰的グローカル化”と音楽伝統の再生産—インド・ラージャスターンにおけるムスリム世襲音楽家一族の100年	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 関西学院大学・先端社会研究所紀要	6. 最初と最後の頁 115-133
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 —

1. 著者名 水野善文	4. 巻 第65輯
2. 論文標題 故知のクンビーラー—金毘羅由来説再考—	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 智山学報：小峰彌彦先生・小山典勇先生古稀記念・転法輪の歩み	6. 最初と最後の頁 103-122頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 —

1. 著者名 丹羽京子	4. 巻 第20号
2. 論文標題 根無し草として生きる～ショイヨド・ワリウツラとふたつの『赤いシャールー』～	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 総合文化研究	6. 最初と最後の頁 27-47
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 —

1. 著者名 Kawamura, Yuto	4. 巻 12
2. 論文標題 Bhatti's Knowledge of Katyayana's and Patanjali's Auguments	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Asian Classical Studies	6. 最初と最後の頁 197-203
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 —

1. 著者名 川村悠人	4. 巻 68
2. 論文標題 汚地に咲く花は美しいか—文法性の保守と詩的装飾のジレンマ—	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 哲学	6. 最初と最後の頁 29-42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 —

1. 著者名 松村耕光	4. 巻 第43号
2. 論文標題 カンバルポーシュの旅行記について	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 言語文化研究	6. 最初と最後の頁 157-172
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 —

1. 著者名 Okita, Kiyokazu	4. 巻 25-1
2. 論文標題 A Vedantic Refutation of Buddhism in Eighteen Century North India: The Tattvadipika of Baladeva Vidyabhushana	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Journal of Vaishnava Studies	6. 最初と最後の頁 153-162
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 —

1. 著者名 Okita, Kiyokazu	4. 巻 65-3
2. 論文標題 From Rasa to Bhaktirasa: The Development of A Devotional Aesthetic Theory in Early Modern South Asia	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 The Journal of Indian and Buddhist Studies	6. 最初と最後の頁 1066-1072
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 —

〔学会発表〕 計21件（うち招待講演 5件／うち国際学会 12件）

1. 発表者名 水野善文
2. 発表標題 説話と説話集 —Simhasanadvatrimshika (or Vikrama-carita)をめぐる—
3. 学会等名 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 プロジェクト「近世南アジアの文化と社会：文学・宗教テキストの通言語的比較分析」 (代表：太田信宏)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 坂田貞二
2. 発表標題 Some Japanese Folktales have been formed accepting Indian Folktales, but some may have been formed independently
3. 学会等名 International Conference on Cultural Exchanges through Narratives (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 置田清和
2. 発表標題 Rejecting Absolute Monism: The Commentaries of Madhva and Vijayadhvaja on Bhagavatapurana 1.1.1.
3. 学会等名 The 17th World Sanskrit Conference, University of British Columbia (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 手嶋英貴
2. 発表標題 『カターサリト・サーガラ』に見られるラーマ物語の歴史的位罫
3. 学会等名 インド思想史学会学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山畑倫志
2. 発表標題 Connection of Old Gujarati Literature with Jain Carita — Capturing Krishna tales and its effect
3. 学会等名 The 17th World Sanskrit Conference, University of British Columbia (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 宮本久義
2. 発表標題 プラーナ聖典におけるシャイヴァ・バクティ
3. 学会等名 度第2回RINDAS研究会「バクティ觀念の中世的展開に関する研究会」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 田中多佳子
2. 発表標題 Metre and Rhythm in Hindu Devotional Songs
3. 学会等名 Seminar on “The Dialects and Literature of Hindi ” Organized by Hiroko Nagasaki (Osaka University)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 長崎広子
2. 発表標題 The Rhythm of Early Hindi Poetry as Reflected in the Pingala Literature
3. 学会等名 13th International Conference on Early Modern Literatures in North India (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 水野善文
2. 発表標題 定説の裏側—文献を読み解く醍醐味—
3. 学会等名 大谷大学仏教学会公開講演会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Niwa, Kyoko
2. 発表標題 Rabindranath ’ s Short Poems with the reference to Japanese Haiku ”
3. 学会等名 Asiatic Society, Kolkata, India（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Niwa, Kyoko
2. 発表標題 Rabindranather racanar japani anubad samparke
3. 学会等名 Surendranath College for Women, Kolkata, India (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Ishida, Hideaki
2. 発表標題 Hindi Dalit Sahitya ka Ek Udaharan ---- Umrav Singh Jatav ko Lekar
3. 学会等名 Asia men Hindi: East Asian Perspectives on Hindi Studies 北京大学 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Sakata, Teiji
2. 発表標題 Braj Culture and Surdas
3. 学会等名 The Council for the Indian Languages at Kolkata (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 田森雅一
2. 発表標題 ダーディー・ミールアシーの口頭伝承と社会組織ーインド北西部ラージャスターンのムスリム楽土カーストの民族誌に向けて
3. 学会等名 日本文化人類学会・第51回研究大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Yokochi, Yuko
2. 発表標題 The Kapphinabhyudaya and the Shishupalavadha,
3. 学会等名 The International Workshop on pre-modern Kashmir 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Niwa, Kyoko
2. 発表標題 On Japan Yatri
3. 学会等名 International Conference on Tagore and Japan (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Isaka, Riho
2. 発表標題 'The Indian book publishing industry in transition: strategies of regional language publishers in the age of globalization
3. 学会等名 AAS-in-ASIA (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Okita, Kiyokazu
2. 発表標題 Singing in Protest: Early Modern Hindu-Muslim Encounters in Bengali Hagiographies of Caitanya
3. 学会等名 Exploring Bhakti: Is Bhakti a Language of Power or of Protest? (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Okita, Kiyokazu
2. 発表標題 The Number of Bhaktirasa-s: Jiva Gosvami's Pritisandarbha on Bhagavatapurana 10.43.17
3. 学会等名 The Bhagavata Puran: Its Histories, Philosophies, and Cultures (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山畑倫志
2. 発表標題 聖者伝に拠らない初期ラーソー文献について
3. 学会等名 日本印度学仏教学会第67回学術大会
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計6件

1. 著者名 坂田貞二ほか	4. 発行年 2019年
2. 出版社 東京外国語大学	5. 総ページ数 252
3. 書名 南アジア多言語社会における複合文化のなかの文学伝承（科研中間報告書）	

1. 著者名 石田英明	4. 発行年 2017年
2. 出版社 大同生命国際文化基金	5. 総ページ数 263
3. 書名 （翻訳）ウダイ・プラカーシ『黄色い日傘の娘』	

1. 著者名 kawamura, Yuto	4. 発行年 2018年
2. 出版社 D.K.Printworld	5. 総ページ数 196
3. 書名 The Karaka Theory Embodied in the Rama Story: A Sanskrit Textbook in Medieval India	

1. 著者名 丹羽京子	4. 発行年 2016年
2. 出版社 (翻訳書) R.タゴール『日本旅行者』	5. 総ページ数 222
3. 書名 本郷書森	

1. 著者名 川村悠人	4. 発行年 2017年
2. 出版社 法蔵館	5. 総ページ数 438
3. 書名 パッティの美文詩研究－サンスクリット宮廷文学とパーニニ文法学－	

1. 著者名 白田雅之ほか	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東京外国語大学	5. 総ページ数 322
3. 書名 南アジア多言語社会における複合文化のなかの文学伝承（科研報告書）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	藤井 守男 (Fujii Morio) (90143619)	東京外国語大学・その他部局等・名誉教授 (12603)	
研究分担者	萩田 博 (Hagita Hiroshi) (80143618)	東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・准教授 (12603)	
研究分担者	丹羽 京子 (Niwa Kyoko) (90624114)	東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・准教授 (12603)	
研究分担者	太田 信宏 (Oota Nobuhiro) (40345319)	東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・准教授 (12603)	